

MOTOSUKO CHAMPIONSHIP 2016 本栖湖チャンピオンシップ 2016

2016.05.28-29

Lake Motosu FunBeach

写真：脇元 祐二 / 霜山 厚
文：霜山 厚

協賛各社（順不同・敬称略）

有限会社シーサイド・コミュニケーションズ
シュリロレーディングカンパニーリミテッド
ナッシュ・ジャパン（株）
スターボードジャパン（株）
CEDRUS GROUP LLC
有限会社 ザ・ブルー

株式会社 P.M. オーシャンスポーツ
株式会社 オンズカンパニー
F-HOT FIN JAPAN
Bio JAPAN
オニールウェットスーツ
ダカイン

不安定な風に翻弄された 2 日間、全クラスがレースを終えることができた

復活から 6 年。30 周年となったこの大会だったが、今年はやや不調な風の中でのレースとなった。

ブローに合わせたスタートをコントロールするディレクター脇元氏泣かせのコンディションだったと言えるだろう。

例年だと、スタート後のブローホールや振れによるキャンセルが多かったのだが、今年はスタートすらできない状態が続いた。

初日の土曜日は夕方まで風は入らず、遅い時間に吹き出したものの、レースにはならない状態で終えた。

日曜日は好調な出だしを見せたものの長続きせず、やや少な目のレース数での成立に留まってしまった。

レースでなければ、「プレーニングできたよ」と言える土曜日

土曜日の朝は薄曇りから始まった。この大会常連はとて多く、夏の入口でのレースを楽しみに来るウインドサーファーがやって来る。ガスティでシフティなコンディションであること、他のレースとは異なる運営のタイプなどなどの個性的な大会ではあることを十分に承知した上で参加してくれる。とある選手が話していた。「本栖湖には絶対ということがないよね。振れやホールができやすいし、まるで読めないことも少なくない。数多くレースできれば、やっぱりうまいヤツ、早いヤツが前に来るけど、レースが少ないと波乱があって面白いんだ」。本栖湖特有のコンディションならではの楽しみ方がこのレースにはあるということだろう。



薄曇りの天候でのスキッパーズミーティング。コンディションが特殊な本栖湖だからこそ、このミーティングでの説明はとて重要。

昨年の参加者 120 名程から、今年は 88 名とやや少なくなったが、それでもやはり人気のあるスラロームレース。ブローが見えたところからスタートシークエンスに入っていくディレクターの脇元氏のコントロールによってヒートはスムーズに進行していく。3 ジャイブマークのダウンウインドコースで、ビーチからスタートラインが近いセミ海上スタート。ラウンドロビン方式の採用も、多くのヒートを走れるという魅力に繋がる。レースの勝ち負けには悔しさが伴うものだが、同時に楽しさもなければ続けられない。真剣なレースでありつつもアマチュアのレースでもあるから、闘うことと楽しむことの両立が求められると運営サイドは考えている。



水際で待機し、シークエンスが始まってからスタートラインに向かう。このスタートは意外とポジション取りが難しい。

早めから吹き始めた風は完璧だった

初日は風が届ききらずノーレースとなったが、2日目は完璧なコンディションで始まった。スペシャル、レディース、ジュニア、ノーカム、メンズというヒート順でレースが始まった。11時頃にはしっかりと入ってきた風はコンスタントに湖面を走り抜け、スペシャルクラスの2ヒートはコース内のブローホールも少なく、理想的なコンディションだった。

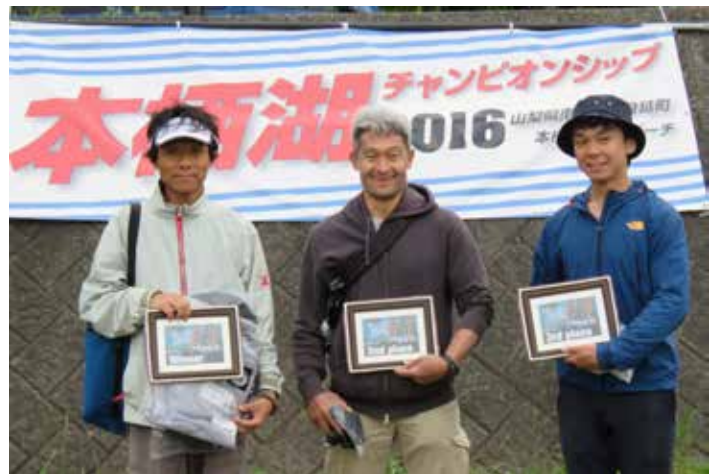
スペシャルクラス第1ヒートは濱口選手がダントツでトップ。第2ヒートは大館選手がトップでフィニッシュ。このままのコンディションで順調にレースが進んで行くに違いないと誰もが感じていたはずだ。しかし、レディースクラス、ジュニアクラスと進んで行くにつれ、風は振れ始め、ホールも目立つようになってきた。しばしのウェイトイングを挟みつつもスペシャルクラスは2レースが成立。優勝したのは猪俣選手。2位に玉野選手、3位大館選手の順となった。



スペシャルクラス入賞の3選手。左から、優勝の猪俣選手、2位となった玉野選手、大館選手。因みに、メンズクラスの持ち回りトロフィーと各クラスの優勝トロフィーは大館選手の作。

ビギナークラスのエントリーは少々寂しい3名

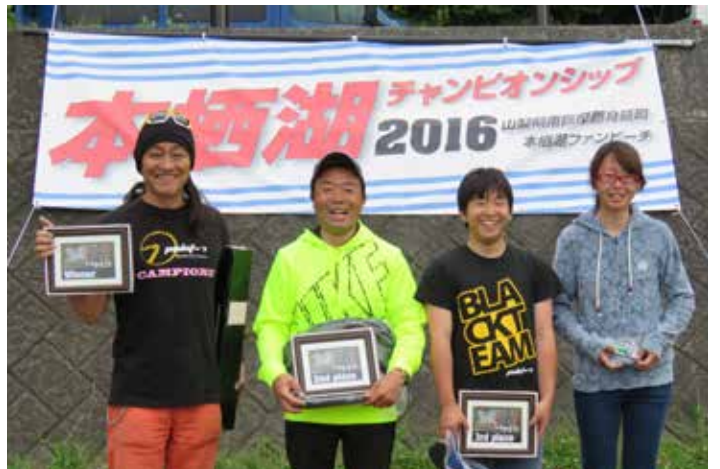
コンディション不安定だからというワケではないが、風速のミニマム設定がない、ジュニアクラスとビギナークラスが各クラスのヒートの合間を縫って行われることとなった。今回のビギナークラスには僅か3名の参加。気軽に楽しめるとしても勉強にもなる大会なので今後の参加者増に期待したい。ビギナークラスはワンジャイブマークのシンプルなコース。しかし、決して距離は短くはないのでコース途中で大きく風が振れてしまったり、風速のアップダウンも激しかったりと、決してビギナーに優しいコンディションとは言えなかった。そんな中でもビギナークラスの3名の選手は黙々とアウトマークに向かい、マーク回航後にフィニッシュラインに向かう。トータル3レースを行ったビギナークラスは、琵琶湖から参戦の原田選手が3レースともトップを取り、優勝。箕浦選手、福重選手の順となった。



ビギナークラス参加の3選手。左から、優勝の原田選手、2位となった箕浦選手、そしてスピードウォール所属の福重選手。

気軽に参加できるノーカムクラスには4名がエントリー

レーシングセイルを持っていなくても気軽に参加出来るクラスとして設定されているノーカムクラスには今年は4名の選手が参加してくれた。このクラスはスペシャルやオープンクラスと同様にミニマム風速規定があるから、ビギナークラスはその位置付けが区別される。レースは道具だけで闘うものではない。ノーカムセイルは小さめのエリアであってもプレーニングしやすいことやハンドリング性の高さによって上手くジャイブマークを回航できることを活かすことができる。トップスピードで闘うのではなく、コース取りやマーキングラインを考えてレースを進めていく楽しみ方も大切。このクラスへの参加者ももっと増えて、和気藹々としつつも結果にも拘っていくレースを楽しんでもらいたいと思う。2レース行われたこのクラスは、安定した走りを見せていた畔上選手が優勝を果たした。



ノーカムクラス参加の4選手。左から、優勝の畔上選手、2位の河原選手、3位に小山選手、そしてこのクラス紅一点の高木里沙選手。



レディースクラス入賞の3選手。左から、優勝の猪俣選手、2位依田選手、そして3位に山本選手。

レディースクラスは2レースの成立

今年のレディースクラスのエントリーは11名。いつも参加してくれる選手が多いが、それでも、絶対にこの選手が勝つ！という評を前もって述べるのは難しい。本栖湖というコンディションもあるが、実力が拮抗しているということも言える。レディースクラスの成立は2レース。この2つを安定した走りでトップフィニッシュした猪俣選手が優勝。2位に依田選手、3位山本選手と続いた。

ジュニアクラスの実力はもはや大人並み

ジュニアクラスは8名のエントリーとなり、少々参加人数が減った。コースレースの大会とスケジュールがバッティングしたり、学校行事やその他の忙しさによるところもあったようだ。小中学校の子供達によるレースは、もはや大人と同等或いはそれ以上の走りを見せる選手もいて、ここ数年の伸び



使用している道具こそまだまだレーサー的ではないが、大人のクラスに参戦してくる頃にはどんなレベルになっているのか計り知れない。



ジュニアクラス入賞の3選手。左から、優勝の宮川選手、2位生駒勇樹選手、そして3位に生駒篤樹選手。

は目覚ましいものがあるから、もっともっと多くの子供達が闘うところを見てみたいものだ。1年経てば身体も技術もアツという間に成長する時期だけに、来年のこの大会への期待が早くも膨らむ。

ジュニアクラスは3レースが成立。スタート時から積極的にパンピングしたり、マーキングでは鋭いジャイブを見せる。ミニマム風速規定が無いクラスではあるが、ほとんどの選手がほぼプレーニング状態でレースを進めていく。優勝は宮川選手。的確な走りが目立っていた。2位には生駒勇樹選手。前を行く宮川選手を追い詰めたり追い抜いたり健闘を魅せたが惜しくも2位に。そして3位には弟の生駒篤樹選手が入った。

3ヒートあったメンズクラスは1レースの成立に留まってしまった

ラウンドロビンシステムによる3ヒートの組み合わせとなったメンズクラスは、何度かスタートしたものの風が落ちることでキャンセルとなったため、成立したのは1レースのみとなってしまった。そのため同ポイントの選手が3名ずつ並ぶ結果となった。各ヒート1位の望月選手、田畑選手、辻田選手が同率優勝。各ヒート2位となった三品選手、種村選手、小島選手の3名が同率の4位となった。

トーナメント形式で、一度敗退したら終わりというレース方式と異なって何度もレースに参加できるのがラウンドロビンの柴らしいところなのだが、1レースのみの成立になるとこういう結果になる。参加選手達は、もっと多くのレースをやって白黒つけたいところだが、今回のコンディションでは致し方なかった。持ち回りのトロフィーは“じゃんけん”によって望月選手に持って帰ってもらうこととなった。来年は、ガッチリと白黒付けて堂々と優勝者が持ち帰れるコンディションに恵まれることを期待したい。



メンズクラス入賞の6選手。左側3名が優勝の望月選手、田端選手、辻田選手。右側3名が4位となった小島選手、三品選手、種村選手。